

詩的言語の翻訳

- 統辞とコンテキストの相互作用による空間の詩学を目指して -

01 はじめに

‘詩的’という言葉で建築や音楽を形容する際しばしば見受けられる言語の類推は、精神及び身体的な感覚を通して理解され、その本性が一体何であるのかは明確に示すことは難しいと思われる。

詩の概念は文藝批評の分野において、言語構造にみられるコンテキストとコード（統辞）の二項対立にみられる緊張や曖昧性から導き出されている。

一方で建築の詩的要因の一つとしては、空間的継起にみられる物質的な構成要素の位置関係及び、それらの時間的継起に伴うリズムにあると思われる。

そこで本研究では、言語学において確立された詩の概念及びコンテキスト理論を整理し、言語と建築空間に共通する統辞的な諸規則の類似性より言語構造と建築空間を照らし合わせることで、建築空間の詩学の一端を明らかにすることを目的とする。

1) 詩や文芸批評の分野で確立されたコンテキスト理論の援用

コンテキスト理論は、言語を生成する自立した構造（統辞）とコンテキストの二項対立を前提としている。

故に...

2) コンテキストから自立した建築の統辞を示す

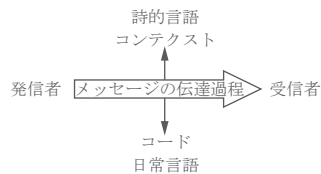
統辞とコンテキストの二項対立の関係から、建築空間における詩学を目指す。

02 言語論におけるコンテキストについて

■ ロシア・フォルマニズム 「詩的言語」

情報を伝達する機能を担う「日常言語」の対概念

言語の価値を伝達機能とせず、リズムや音韻、語義など、言語そのものの価値に着目

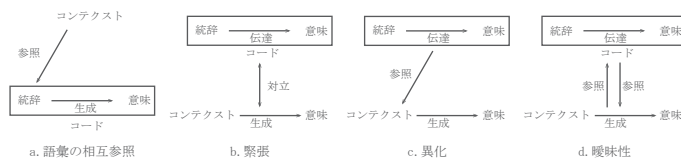


言語は伝達される過程においてコンテキストを参照し、伝達を目的としたコードから離れるほど詩的言語となる。

コードとコンテキストの二項対立の関係から、緊張や曖昧性が生じると考えられる。

■ コード/コンテキストの二項対立による詩的表現に関して

言語の詩的表現に関しては次の四つの類型が考えられる。文章の前後関係の中で音韻、リズムを形成するもの (a)。コードによって規定された意味とコンテキストによって生成された意味の対立 (b) 及び両者共存 (d)。コードの伝達過程においてコンテキストを参照することでコードからずらし新奇な意味を生成するもの (c)。



03 建築設計へのコンテキスト理論の導入

■ 建築の多様性と対立性 (1966) ロバート・ヴェンチューリ

ヴェンチューリはモダニスト達が避けてきた複雑な諸要素を受け入れる建築には、断片、対立性、即興、またそれらの緊張状態などを取り込む余地があり、そこに詩的価値があることを論じた。

→ 詩や芸術に用いられたコンテキスト理論が、複合によって生じる二項対立の関係であり、建築においても諸要素の複合によって詩的価値が引き出されると考えられる。

複合（二項対立）を受け入れる建築の詩的価値を評価し、近代建築の純粋主義を補完した。



コルビュジェが厳格で支配的な秩序を設定しながらも、その範囲内での例外的、状況的な不整合を認めている。

↓
秩序/例外という「二項対立」の関係は、単純であり複雑であるという「曖昧性」を現出させ、形態に緊張をもたらす。

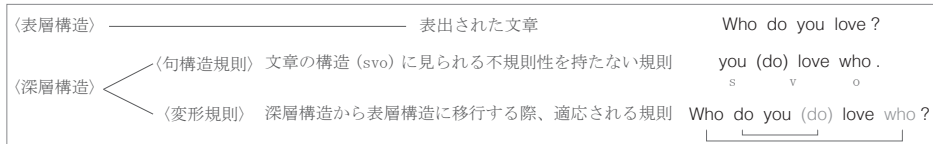
文藝批評から、建築理論におけるコンテキスト概念の導入

コード/コンテキスト	秩序/例外	統辞/コンテキスト
文芸批評	ヴィラ・サヴォア	建築一般（本研究）

04 建築設計における言語論の援用

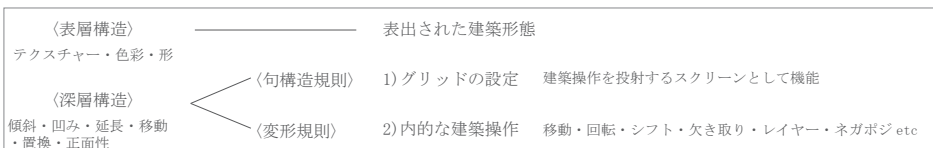
■ 生成文法 (1955) ノーム・チョムスキー

文章を階層を持った構造に分解し、文章内の単語の並び方の規則を明らかとした。
生成文法は階層をもった構造を持つが故、限定されたパターンに還元される。



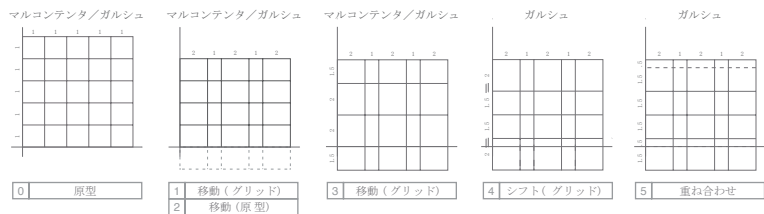
■ 建築設計への生成文法の援用 ピーター・アイゼンマン

形とコンテキストを切り離し、形の内部の論理によって展開される過程の中で形の構造の本性を示した。
建築の表層構造に触れることなく、グリッドを深層構造の句構造規則に相当するものと捉え、それに変形規則を適用することで形態が導かれる生成過程を提示した。



05 建築の深層構造における句構造規則

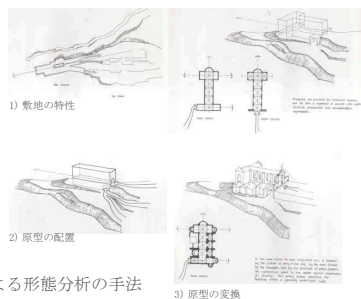
本研究では、ヴィラ・マルコンテナと、ヴィラ・ガルシュの統辞の類似を指摘したコーリン・ロウのエッセイ『理想的ヴィラの数学 (1947)』を下敷きにすることで、グリッドが変形規則によって変形される様子の分析を行った。



06 形態分析の方法

形態の分析手法は、単純な幾何学的な形態 (原型) を完成形になるまでの変化過程を周辺環境と関連づけて分析したジェフリー・ベイカーの形態分析の手法を主軸とし、原型を立体グリッドに置き換え、最終的なグリッドの比例関係になるまでの変化過程を周辺環境と関連づけて行う。

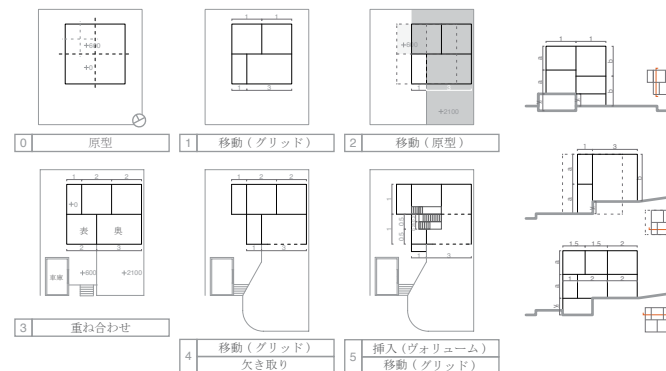
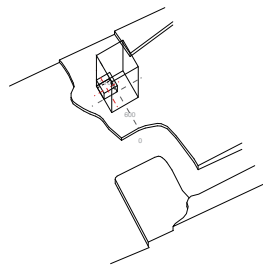
なお、グリッドの変化過程の抽出方法は 07 で示した統辞の変形規則を適応する。



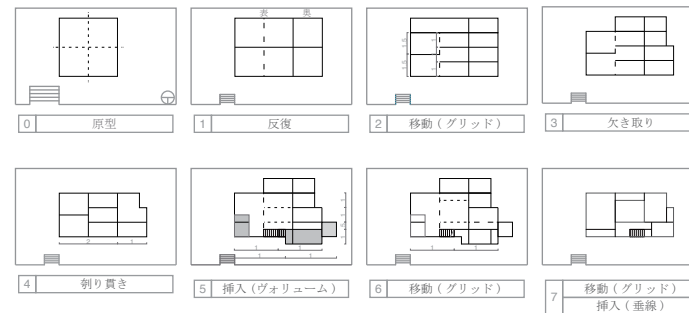
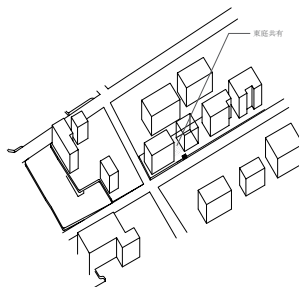
ジェフリー・ベイカーによる形態分析の手法

07 戦前日本近代住宅の統辞の抽出

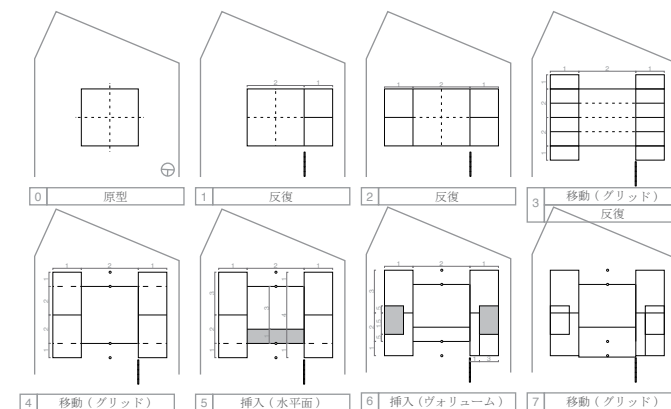
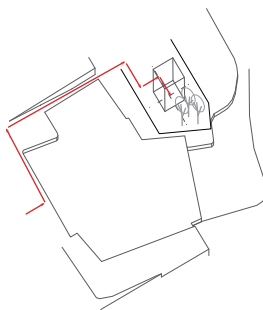
土浦亀城 自邸



谷口吉郎 自邸



前川國男 自邸

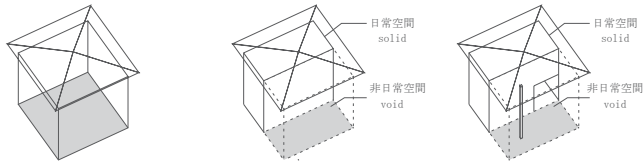


08 共通の構造の抽出

すべての物には日常生活のなかで無意識的に傍受されるもの（環境性）と、非日常化することで積極的に図像に関わる（対象性）の二面性があるとし、その両者（環境/対象、無意識/意識、日常/非日常）の対立と変換のうちにひとつの空間が成立する。

坂本 一成

空間の二面性の抽出過程は、覆いによって囲われた全体の外形を、機能的な生活の役割を担う日常空間と、その対空間であり生活の核となるような場を形成する非日常空間に異化することで行われる。
この非日常空間の本義は、日常空間ではないという定義を前提とした概念であり、虚 void の空間である。



外形による建築空間の定義

建築空間の二面性
a. 異化の方法

空間を形成する建築要素、場の対象化
b. 接続の方法

異化の方法
空間同士の配列の中で序列を構成し、solid 空間と void 空間の差異を示すことで二つの空間の関を定義する。

接続の方法
solid 空間、及び、全体の外形である外部と内部の境界面を void 空間と接続し、空間の中で副次的に囲うもの、仕切るものでしかなかったもの（壁や床）を、孔を開けることによって意識的に対象化する。

	土浦亀城 自邸 (1935)	谷口吉郎 自邸 (1935)	前川國男 自邸 (1942)
a. 異化の方法			
b. 接続の方法			

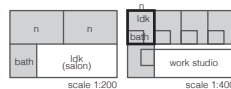
09 設計概要

本設計は、場所の持つコンテキストと建築にみられる統辞の関係から生じる緊張と曖昧性による空間の詩学を目指すものであるためケーススタディの形式を採用し、特徴のある敷地を三つ選定した。
対象地は東京都渋谷区神宮前の三カ所である。

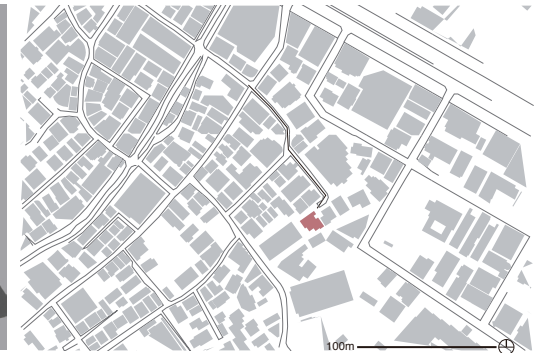
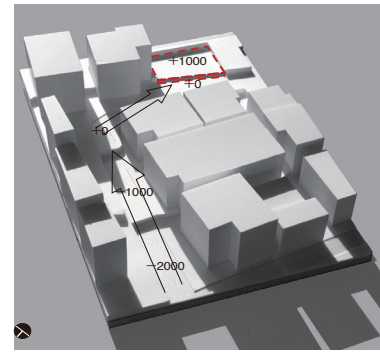
■ 単身者とディンクスが暮らすノマド・アパートメントの提案

ここで提案するノマド・アパートメントは、ノマドを、暮らすというライフスタイルそのものに拡張した住まい方の提案である。対象となる子供を持たない単身者及びディンクスは、家を所有せず住む場所を自由に選択しながら、あらゆる都市の各所に点在するノマド・アパートメントに移り住む。このノマド・アパートメントには知的生産の場としての「ワークスタジオ」が付随し、戦前の近代住宅が公的なサロン空間と、私的な生活空間によって構成されていたのと同様に、公的なワークスタジオと、私的な住戸によって構成される。

	戦前日本近代住宅 1935-1945	ノマド・アパートメント 2017-20??
公	サロン空間	ワークスタジオ
私	生活空間	住戸



写真家のアパートメント c a s e s t u d y - a



3. y 軸方向において統辞によるリズムと地形によるリズムに差異が生じる。

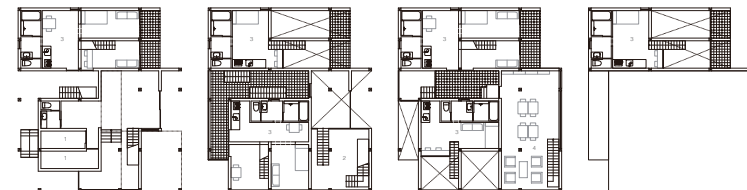
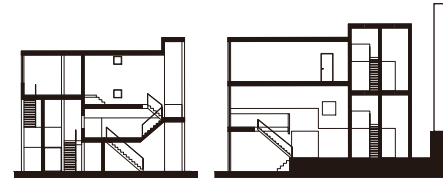
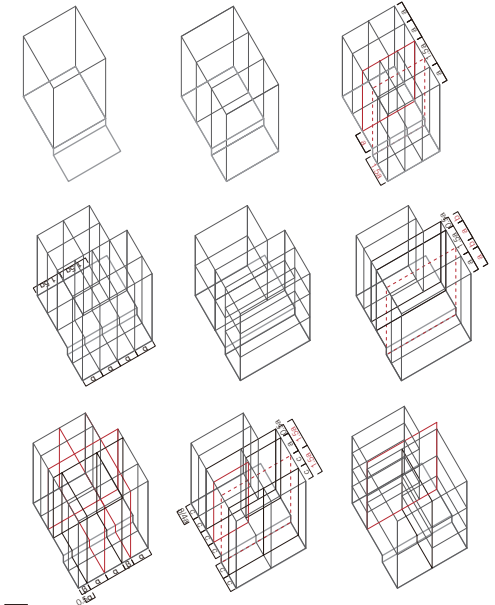
4. 前のヴォリュームはアプローチの方向性の力を受け、x 軸方向に反復されることで、前後のヴォリュームの相違が表出される。

6 統辞のリズムは中央部を強調するが、地形のリズムは abab の反復したリズムをもつ。

7 異化されたヴォリュームの関を貫通する力と貫通しない力。
x 軸方向の統辞は $\beta \alpha \alpha \beta \alpha$ のリズムをもち中央部と反復されたヴォリュームが同時に強調される。

8 アプローチ側のヴォリュームは地形を含めた同一の比例の反復による静的な構成となることで、裏側の空間と対立した関係となる。

1	2	3
4	5	6
7	8	9



- 1 暗室
 - 2 ギャラリー
 - 3 住戸 (6 室)
 - 4 作業スペース
- scale 1/200



3. 南面のヴォリュームが欠き取られ採光を確保する。

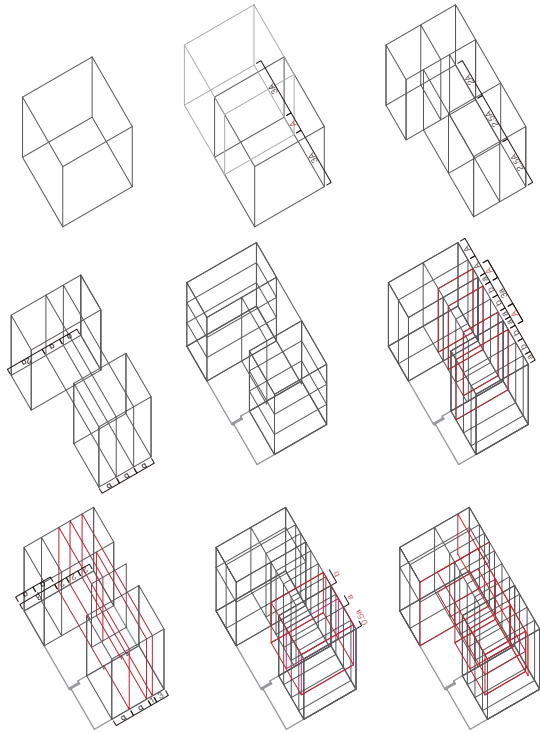
4. 分離されたヴォリューム。共通する前後の統辞と道路からの強い軸線が両者を接続する。

6. abba の中央を強調するリズムが前面から反復される。一方で分離されたヴォリュームの関には共通する A (2a) の統辞がみられる。ここでは反復される統辞 abba と AA の統辞による相違と、三つのヴォリュームの相違が見られる。

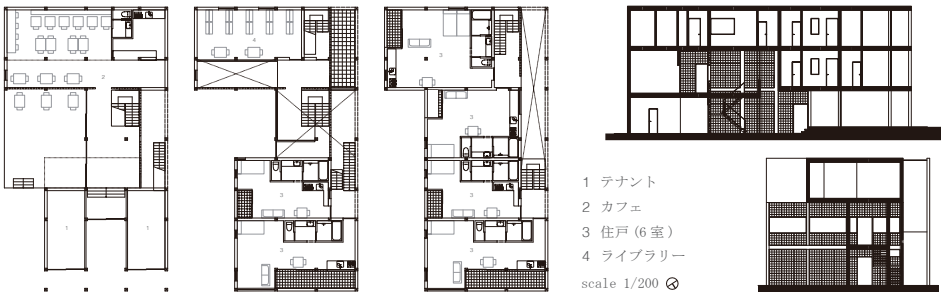
7 異化されたヴォリュームの関を貫通する三つの面と貫通しない一つの面の力。貫通しない面によって、前方と後方のヴォリュームの統辞に差異が図られる。

8. 6 でみられた y 軸方向の統辞から移動することで、上部のヴォリュームが solid なものとして知覚される。

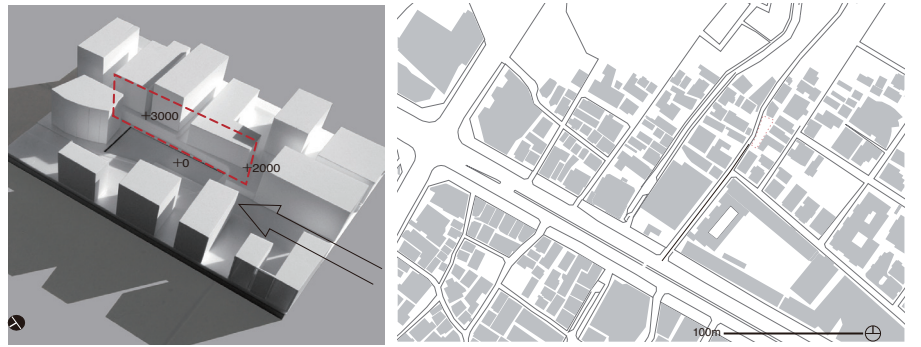
9. 上部にみられる solid なヴォリュームは延長され、ヴォリュームの関となる面を貫通する。



1	2	3
4	5	6
7	8	9



- 1 テナント
 - 2 カフェ
 - 3 住戸 (6室)
 - 4 ライブラリー
- scale 1/200



3. solid と void がヴォリューム単位で反復され、空間のシーケンス及び道路の景観にリズムが与えられる。このヴォイドによって内部に光を入れる。

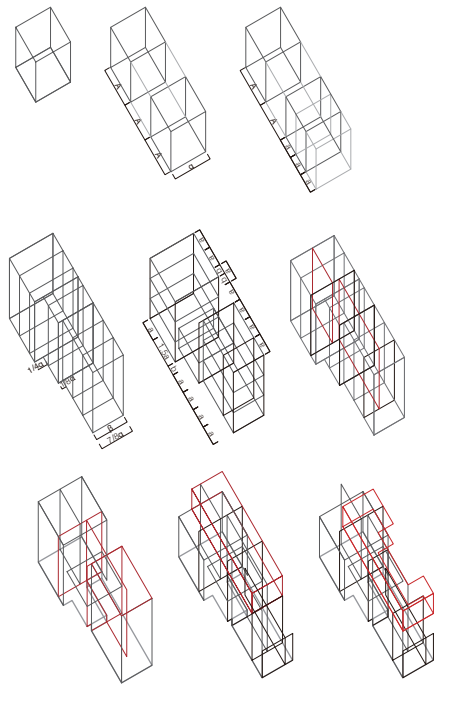
4. 敷地の形状より統辞が移動しヴォリュームの分節が表出される。

6. 分節されたヴォリュームの関を貫通する力と貫通しない力

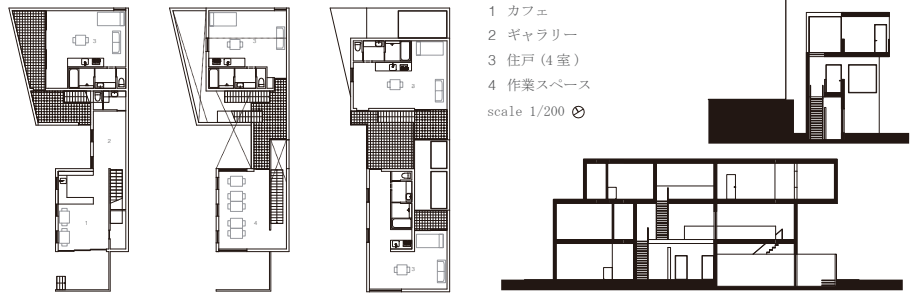
7. 関を貫通する面の力は異化されたヴォリュームの面を移動させる。この貫通する面は x 軸方向を二分する面となる。

8. 後方上部の道路側のヴォリュームは欠き取られ、前面のヴォリュームと面が揃うことで、solid な直方体のヴォリュームとして知覚される。

9. 直方体のヴォリュームは全体が前方に移動し、南中央のヴォリュームが欠き取られる。



1	2	3
4	5	6
7	8	9



- 1 カフェ
 - 2 ギャラリー
 - 3 住戸 (4室)
 - 4 作業スペース
- scale 1/200